

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成30年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：デイサービスにおける口腔機能低下予防に対する歯科との連携構築および口腔機能向上プログラム支援事業</p>
<p>2. 申請者名：公益社団法人 山口県歯科医師会 会長 小山茂幸</p>
<p>3. 実施組織：公益社団法人 山口県歯科医師会</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>特定のデイサービス施設と本会が協力し、デイサービスにおける口腔機能低下予防について歯科との連携構築および口腔機能向上プログラム支援事業のモデルケースの構築を計画した。また、ICTを活用することで歯科が現場に赴くことなく評価・助言を行えるように工夫をする。これにより、まだ本格的なフレイルが始まる前の要介護者および要介護予備軍の口腔機能低下予防の足がかりとしたい。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>介護の分野においてもフレイル、特にオーラルフレイルの概念が導入されたことにより、デイサービスの現場での口腔機能向上プログラムに対する関心が高まっている。実際にケアマネジャーからデイサービスへの情報提供の中で口腔内の問題、具体的には「食べにくいものが増えた」「むせることがある」「口の中が乾く」といったことに対してどのように対応すべきか？という質問が歯科に寄せられることが多くなっている。</p> <p>今回、ICTを活用することにより、デイサービスの利用者の、特に口腔機能低下の兆候が認められる方に関して、歯科との連携を容易にするツールとシステムを構築する。</p> <p>具体的な方法として、口腔機能低下に対するアセスメントおよび口腔機能向上プログラム構築にあたり、ケアマネジャーからの情報提供の口腔機能低下にチェックが入っている方に対し、介護職員でも対応できる口腔機能アセスメント表を歯科医師とデイサービス施設の共同で作成する。これを規格化しICTを活用することで歯科が毎回現場に赴くことなく評価・助言を可能にする。そのアセスメント表により、歯科受診の必要性が認められた利用者が適切な歯科受診に繋がるような連携システムを構築する。また、介護職員および施設利用者を対象に口腔機能低下予防に関する講習会を定期的で開催し、知識と意欲の向上を図る。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>ICTを活用して規格化した情報を使うことにより、より効率的なデイサービスにおける多職種連携の可能性を示唆できた。</p> <p>採取した資料を元にすれば、ある程度の口腔機能不全症の診断も行うことができる。</p> <p>この資料を元に歯科医師が口腔機能向上サービスに対する助言を行う。サービスの前後の評価に関しては、アセスメントに使用したEAT-10で行う予定である。</p> <p>今後の課題としては、これで利用者の口腔機能不全の疑いが指摘されたとしても、歯科医院に外来で受診してもらう必要があるため、どこまで受診してもらえるかが未知数である。</p> <p>このシステムは、デイサービスにおける口腔機能向上プログラムへの支援として開発したので、長期間運用を行って見ての術前、術後の比較をより多くのケースで行っていききたい。</p> <p>現在は一部の協力施設との間でのみの使用となっているが、今後は、もっと多くの施設で、また多くの会員の間でもこのシステムが普及していくように、取り組んでいきたい。</p>